

# 小さな能楽師

# 大きな成果



稽古の成果を披露する地元の小学生ら

## 「和布刈」を披露

門司区清瀨の旧料亭「三宜楼」で16日、地元の和布刈神事を題材にした能楽を地域の小学生が発表した。能楽体験教室で稽古を重ねてきた成果を保護者らの前で堂々と披露した。

能楽を次世代に継承し普及・発展することを目的とした「能楽」で地域活性化実行委員会（事務局・北九州商工会議所）の活動の一環。約10人が舞台上立ち、関門海峡で刈り取ったワカメを神前に供え、航海の安

全と豊漁を願う和布刈神事を題材とした「和布刈」を演じた。

子どもたちは5、7月の7日間、実行委が開催した体験教室で稽古しており、真剣なまなざしで舞や謡を披露した。太鼓を担当した

港が丘小5年の木村真咲さん(10)は「大勢の前で恥ずかしかったが、太鼓のたたきは完璧だった」と笑顔をみせた。

実行委は、今後も学校での出前教室や体験教室を予定している。【日向米華】